

ミュージック・データ・マネージメント・ソフト  
**データマネージャー6.1**

# 操作マニュアル

お買い上げの製品に付属している  
取扱説明書もあわせてお読みください。

|                               |           |
|-------------------------------|-----------|
| <b>全体説明</b> .....             | <b>4</b>  |
| データマネージャーとは .....             | 4         |
| 必要なパソコン環境 .....               | 4         |
| 本ソフトウェアのご使用にあたって .....        | 5         |
| <b>使用準備・起動・終了</b> .....       | <b>6</b>  |
| 使用準備 .....                    | 6         |
| ソフトウェアを起動する .....             | 6         |
| ソフトウェアを終了する .....             | 7         |
| <b>Transfer モード</b> .....     | <b>8</b>  |
| 機能概要 .....                    | 8         |
| 注意 .....                      | 8         |
| 画面説明 .....                    | 8         |
| 操作方法 .....                    | 10        |
| <b>Backup モード</b> .....       | <b>12</b> |
| 機能概要 .....                    | 12        |
| 注意 .....                      | 12        |
| 画面説明 .....                    | 12        |
| 操作方法 .....                    | 13        |
| <b>Package Edit モード</b> ..... | <b>15</b> |
| 機能概要 .....                    | 15        |
| 注意 .....                      | 15        |
| 画面説明 .....                    | 15        |
| 操作方法 .....                    | 17        |

|  |           |
|--|-----------|
| <b>Package Transfer モード</b> .....            | <b>19</b> |
| 機能概要 .....                                   | 19        |
| 注意 .....                                     | 19        |
| 画面説明 .....                                   | 19        |
| 操作方法 .....                                   | 20        |
| <b>Audio モード</b> .....                       | <b>22</b> |
| 機能概要 .....                                   | 22        |
| 注意 .....                                     | 22        |
| 画面説明 .....                                   | 23        |
| 操作方法 .....                                   | 24        |
| <b>Preference</b> .....                      | <b>27</b> |
| 機能概要 .....                                   | 27        |
| 画面説明 .....                                   | 27        |
| 操作方法 .....                                   | 28        |
| <b>その他の使用方法</b> .....                        | <b>29</b> |
| メモリーカードを使ってパソコンと楽器のデータをやり取りする .....          | 29        |
| 注意 .....                                     | 29        |
| ユーザーデータファイルフォルダ上のファイルをメモリーカードにコピーする .....    | 29        |
| パソコン上の任意の場所のファイルをユーザーデータファイルフォルダにコピーする ..... | 29        |
| <b>ユーザーデータ一覧</b> .....                       | <b>30</b> |
| リズムデータに関する補足 .....                           | 30        |
| <b>エラーメッセージ</b> .....                        | <b>31</b> |

# 全体説明

## データマネージャーとは

データマネージャー（本書では以降、“本ソフトウェア”と表記します）はパソコン上で主に以下の操作を行うためのアプリケーションソフトです。

- 楽器(\*1)のユーザーデータをパソコンに保存します。
- パソコンのユーザーデータファイルを楽器に転送します。
- 楽器でメモリーカード(\*2)に録音したオーディオファイル(\*3)をパソコンで再生可能な形式に変換・保存します。
- WAVEファイルを楽器で再生可能な形式に変換し、メモリーカードに保存します。

※1 別紙「データマネージャー 6.1対応機種リスト」の“データマネージャー 6.1 対応機種”に掲載されている、カシオ電子楽器モデル（本書では以降、“楽器”と表記します）

※2 SDメモリーカードまたはSDHCメモリーカードをご使用ください。使用可能な容量は楽器の取扱説明書をご覧ください。他の規格のメモリーカードはご使用になれません。

※3 オーディオ録音・再生機能は、別紙「データマネージャー 6.1対応機種リスト」の“オーディオ機能搭載機種”でお使いいただけます。

### 重要!

- 本ソフトウェアをご使用中に、他のアプリケーションソフトを使用したり、パソコンのUSBケーブルやメモリーカードを抜いたり、パソコンと接続している機器の電源を操作したりしないでください。本ソフトウェアが正常に動作しなくなるばかりではなく、データが壊れたり、楽器やパソコンが故障したりする場合があります。

## 必要なパソコン環境

### ■ 対応OS

Windows® XP (SP2以降) ※1

Windows Vista® ※2

Windows® 7 ※3

Mac OS® X (10.5.X、10.6.X、10.7.X) ※4

※1 : Windows XP Home Edition

Windows XP Professional (32bit版)

※2 : Windows Vista (32bit版)

※3 : Windows 7 (32bit版、64bit版)

※4 : Intel Mac専用

### ■ 画面の設定

解像度 : 800×600ピクセル以上

色 : Windows OS : 16bit以上

### 重要!

- お客様のソフトウェアやハードウェアの環境によっては、上記以外の要因により本ソフトウェアが正常に動作しない場合があります。

## 本ソフトウェアのご使用にあたって

- 本ソフトウェアの著作権はカシオ計算機株式会社に帰属します。
- 本ソフトウェアのファイル構成・内容等に修正を加えたものを配布することを禁止します。
- 弊社は、本ソフトウェアに関して一切動作保証をいたしません。また本ソフトウェアの使用により生じた、損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求につきましても、弊社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 本ソフトウェアは無償でご使用いただけます。また、友人等への営利を目的としない再配布は原則として自由です。
- 本ソフトウェアは、弊社サポート対象外とさせていただきます。
- 本ソフトウェアの内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。
- 本書に掲載しているイラストは、実際のパソコン画面での表示内容と異なる場合があります。
- GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2.1（以下LGPL）に定められた範囲を除き、弊社の許可なく本ソフトウェアを改変することはできません。
- 本ソフトウェアはLGPL版 Qtライブラリ4.6.3を使用しており、同ライブラリを動的リンクすることによって動作しています。Qtライブラリは <http://qt.nokia.com/> から入手することができます。
- LGPL全文につきましては、本ソフトウェアの配布ファイルに同梱されているLGPL.txtをご覧ください。

# 使用準備・起動・終了

## 使用準備

### Windowsの場合

1. カシオのホームページから本ソフトウェアのファイルをダウンロードして、パソコンに保存します。
2. 保存したファイルを解凍（展開）してください。

パソコン上に“CASIO DataManager6”というフォルダが作成されます。

- データマネージャー 6.0がインストールされている場合は、“CASIO DataManager6” フォルダごとデータマネージャー 6.1に置き換えてください。

### Macの場合

1. カシオのホームページから本ソフトウェアのファイルをダウンロードして、パソコンに保存します。
2. 保存したファイルを開いてください。

“CASIO DataManager6” というイメージが作成されます。

“CASIO DataManager6” をアプリケーションフォルダにコピーしてください。

- データマネージャー 6.0がインストールされている場合は、データマネージャー 6.1に置き換えてください。

## ソフトウェアを起動する

### Windowsの場合

1. 楽器のモードをリズムモードに変更します。

リズムモード以外のモードの場合、データの転送や消去を行えないことがあります。

2. パソコンで他のアプリケーションソフトをお使いの場合には、必ず終了させてください。

本ソフトウェア以外のアプリケーションソフトが起動していると、本ソフトウェアを使用できないことがあります。

3. フォルダ“CASIO DataManager6”をダブルクリックします。

4. フォルダ内の“DataManager6.exe”をダブルクリックします。

本ソフトウェアが起動します。

### Macの場合

1. 楽器のモードをリズムモードに変更します。

リズムモード以外のモードの場合、データの転送や消去を行えないことがあります。

2. パソコンで他のアプリケーションソフトをお使いの場合には、必ず終了させてください。

本ソフトウェア以外のアプリケーションソフトが起動していると、本ソフトウェアを使用できないことがあります。

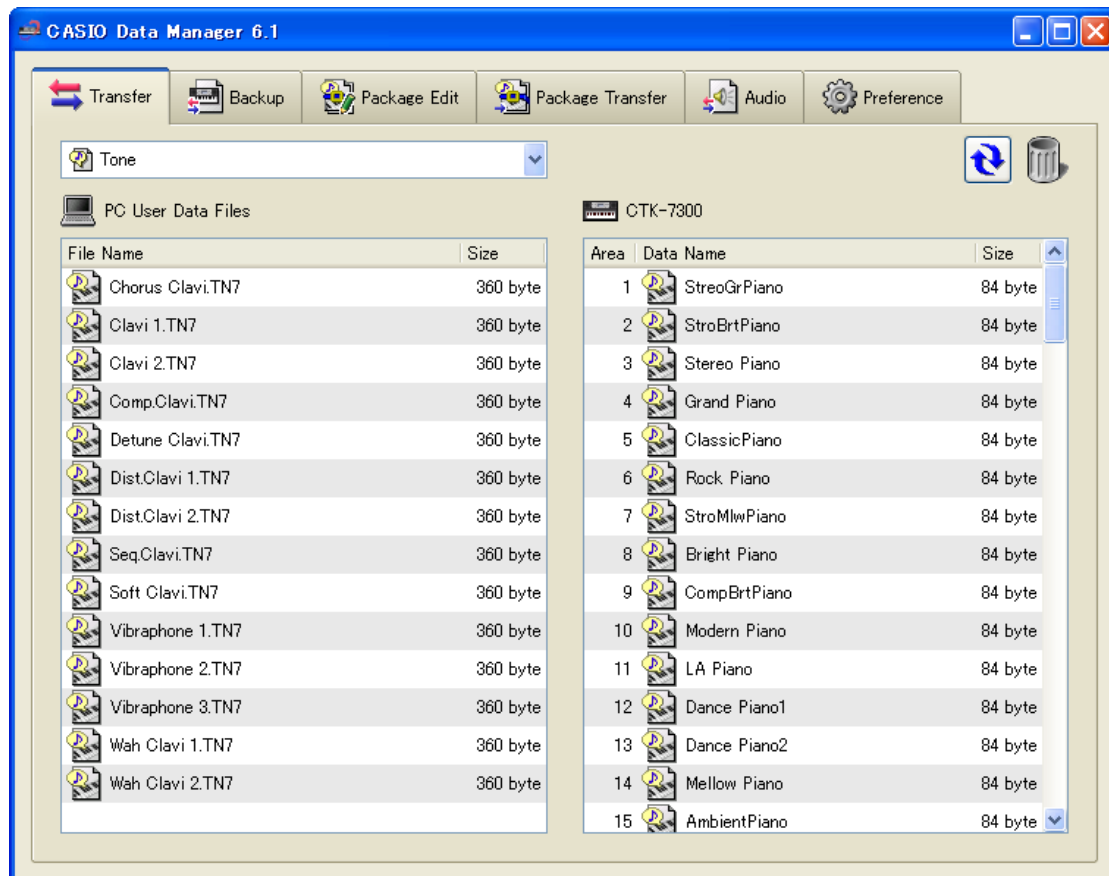
3. アプリケーションフォルダの“CASIO DataManager6”をダブルクリックします。

本ソフトウェアが起動します。

## 起動後画面

起動すると下記のような画面が表示されますので、使用するモードのタブをクリックしてください。使用するモードの詳細については、そのモードの章をご覧ください。

- イラストはWindows XPの場合の画面です。



## ソフトウェアを終了する

タイトルバー部分にある“×” ボタンをクリックしてください。

- 転送などの処理中に本ソフトウェアを終了しようとする、終了しても良いか確認する画面が表示されます。“Yes” ボタンをクリックすると処理が途中でキャンセルされ、本ソフトウェアが終了します。処理をキャンセルした場合の影響については、どの処理をキャンセルしたかによって大きく変わりますので、各モードの説明をご覧ください。

# Transferモード

## 機能概要

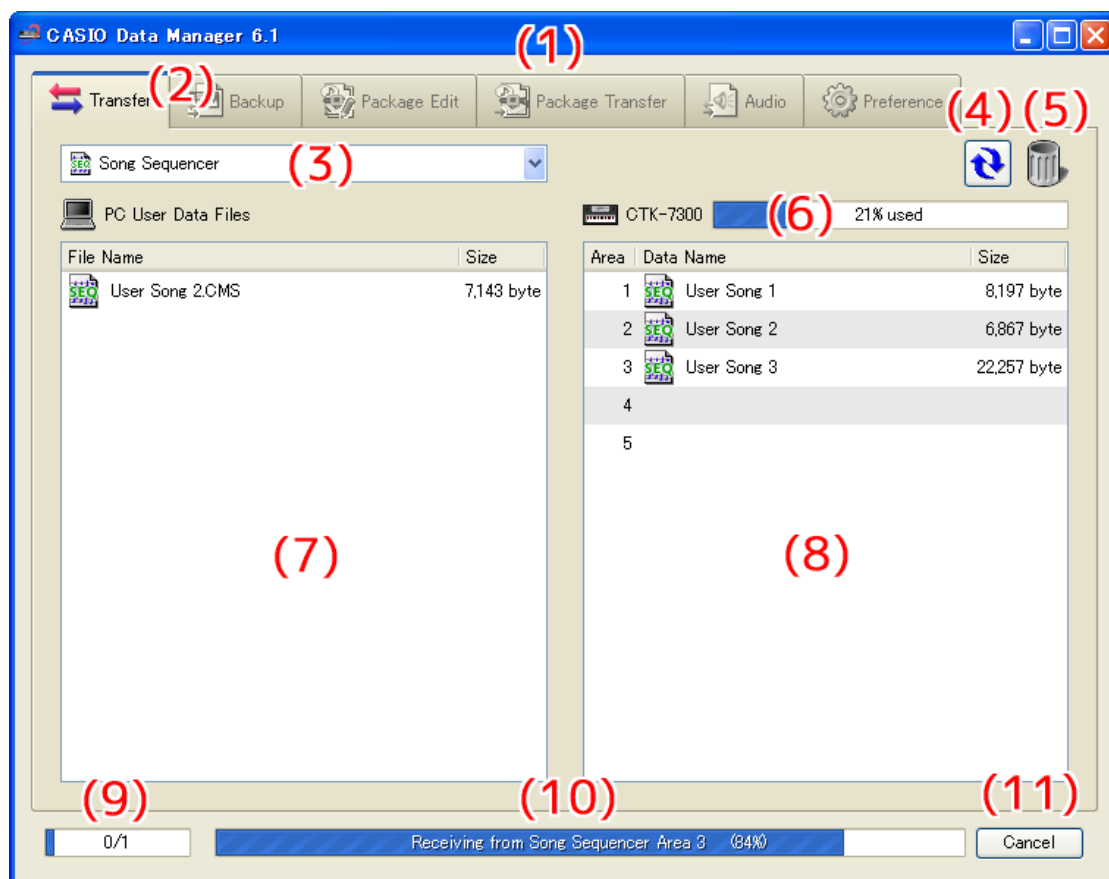
- 楽器で作成したユーザーデータをパソコンに保存します。
- パソコンに保存してあるユーザーデータファイルを楽器に転送します。
- 楽器内のユーザーデータを消去します。
- パソコンに保存してあるユーザーデータファイルを削除します。

## 注意

- 本モードの機能を使用するためには、楽器とのUSB接続が必要です。
- 楽器とパソコンの接続方法については、楽器の取扱説明書を参照してください。
- 2台以上の楽器をパソコンに接続した場合、本ソフトウェアが正しく動作しない場合があります。
- 本モードで楽器とデータ転送を行っている間は、楽器の操作を行わないでください。本ソフトウェアや楽器の動作が不正になったり、楽器のデータを破壊したりしてしまう可能性があります。

## 画面説明

- イラストはWindows XPの場合の画面です。



### (1) タイトルバー

端の“×”ボタンをクリックすると、本ソフトウェアが終了します。楽器とパソコンが接続されていない場合、ここに“<Disconnected>”と表示されます。

### (2) モード選択タブ

使用するモードを切り替える場合は、ここから対応するタブを選択します。切り替え先のモードの詳細については、そのモードの章をご覧ください。



### **(3) データ種類選択ボックス**

本モードでの操作の対象とするデータの種類を選択します。ここで選択したデータの種類に応じて、“(7)パソコンファイルリスト”や“(8)楽器データリスト”に表示されるファイルおよびデータが変わります。選択できるデータの種類は、お使いの楽器によって異なります。詳しくは30 ページをご覧ください。

### **(4) リロードボタン**

“(7)パソコンファイルリスト” および“(8)楽器データリスト” の表示を最新の内容に更新します。本モードを使用中に楽器を操作してユーザーデータを変更したり、パソコン側のユーザーデータファイルフォルダ (27 ページ) を本ソフトウェア以外から操作したりした場合、本ソフトウェア上の表示は自動的に更新されません。そのような操作を行った場合は、このボタンをクリックして表示を更新してください。

### **(5) ゴミ箱**

楽器のデータやパソコンのファイルの削除を行います。

### **(6) メモリー使用量表示バー**

楽器における現在のメモリー使用量を表示します。このバーは“(3)データ種類選択ボックス”で“Song Sequencer”、“Music Preset”を選択した時に表示されます。メモリー使用量は100%を超えることはできません。

### **(7) パソコンファイルリスト**

パソコンのユーザーデータファイルフォルダ (27 ページ) 内に保存されているファイルの一覧を表示します。

### **(8) 楽器データリスト**

楽器に保存されているユーザーデータの一覧を表示します。

### **(9) 全体進捗表示バー**

現在、いくつの処理が予約・実行されているかを表示します。処理の実行中のみ表示されます。

### **(10) 個別進捗表示バー**

現在の処理の進捗状況を表示します。処理の実行中のみ表示されます。

### **(11) キャンセルボタン**

転送やデータ消去をキャンセルします。処理の実行中のみ表示されます。

### 楽器からパソコンに転送する

1. “(3)データ種類選択ボックス” で、パソコンに転送したいデータ種類を選択します。
2. “(8)楽器データリスト” に表示されたデータから、パソコンに転送したいデータを決めておきます。
3. “(8)楽器データリスト” から “(7)パソコンファイルリスト” に、そのデータをドラッグアンドドロップ(\*1) します。

転送処理が予約され、順番に実行されます。処理が1つ終了するたびに、“(7)パソコンファイルリスト” に保存されたファイルが表示されます。

#### 注意

- “(7)パソコンファイルリスト” に表示されるファイルのサイズは、元となった “(8)楽器データリスト” 上のデータのサイズとは異なる場合があります。

\*1 ドラッグアンドドロップとは、ファイルやデータを移動させる場合に行うマウス操作を指します。移動したいファイルやデータのアイコンの上にマウスカーソルが重なっている状態でマウスボタンを押し、押したままの状態でもマウスカーソルを移動先まで動かす、マウスのボタンを離してください。

### パソコンから楽器に転送する

1. “(3)データ種類選択ボックス” で、パソコンに転送したいデータ種類を選択します。
2. “(7)パソコンファイルリスト” に表示されたファイルから、楽器に転送したいファイルを決めておきます。
3. “(8)楽器データリスト” から、どのエリアに転送したいかを決めておきます。
4. “(7)パソコンファイルリスト” からそのファイルを “(8)楽器データリスト” のエリアにドラッグアンドドロップします。

転送処理が予約され、順番に実行されます。処理が1つ終了するたびに、“(8)楽器データリスト” に転送されたデータが表示されます。転送先エリアに既にデータが存在する場合は、転送処理の実行直前に上書きしても良いか確認する画面が表示されます。データを上書きすると、これまで存在していたデータは失われますのでご注意ください。上書きして良ければ、“Yes” ボタンをクリックしてください。

#### 注意

- “(8)楽器データリスト” に表示されるデータのサイズは、元となった “(7)パソコンファイルリスト” 上のファイルのサイズとは異なる場合があります。

### 楽器からユーザーデータを消去する

1. “(3)データ種類選択ボックス” で、楽器から消去したいデータ種類を選択します。  
楽器から消去できるデータ種類は、“Rhythm”、“Song Sequencer”、“Music Preset” の3種類のみとなります。
2. “(8)楽器データリスト” に表示されたデータから、消去したいデータを決めておきます。
3. “(8)楽器データリスト” から “(5)ゴミ箱” に、そのデータをドラッグアンドドロップします。

消去処理が予約され、順番に実行されます。処理が1つ終了するたびに、“(8)楽器データリスト” に消去の結果が反映されます。

## パソコンからユーザーデータファイルを削除する

1. “(3)データ種類選択ボックス” で、パソコンから削除したいデータ種類を選択します。
2. “(7)パソコンファイルリスト” に表示されたファイルから、削除したいファイルを決めておきます。
3. “(7)パソコンファイルリスト” から “(5)ゴミ箱” に、そのファイルをドラッグアンドドロップします。  
お使いのシステムのゴミ箱に捨てる時と同じ動作をします。

## パソコン上のユーザーデータファイルの名前を変更する

1. “(7)パソコンファイルリスト” に表示されたファイルのうち、名前を変更したいファイルを1つ選び、それをダブルクリックします。
2. ファイル名を入力できる状態になりますので、新しいファイル名を入力します。
3. 入力終了後、エンターキーを押します。

### 注意

- ここで変更した名前は、楽器で表示される名前には反映されません。楽器で表示される名前の変更は、本ソフトウェアでは対応しておりませんので、楽器上の名前変更機能をお使いください。楽器上の名前変更機能の操作方法は、楽器の取扱説明書をご覧ください。

## 転送・消去をキャンセルする

転送または楽器のデータ消去を実行している最中に表示される“(11)キャンセルボタン”をクリックすると、確認画面が表示されますので、“Yes” ボタンをクリックします。

現在実行中の処理がキャンセルされ、予約が全て破棄されます。

### 注意

- 既に終了した処理はキャンセルできません。
- データの種類によってはデータの転送・消去の処理をキャンセルできないことがあります。キャンセルできない処理中は、“(11)キャンセルボタン” をクリックできない状態になります。

# Backupモード

## 機能概要

- 楽器内の全てのユーザーデータをまとめてパソコンにバックアップファイルとして保存します。
- パソコンに保存してあるバックアップファイルを楽器に転送します。

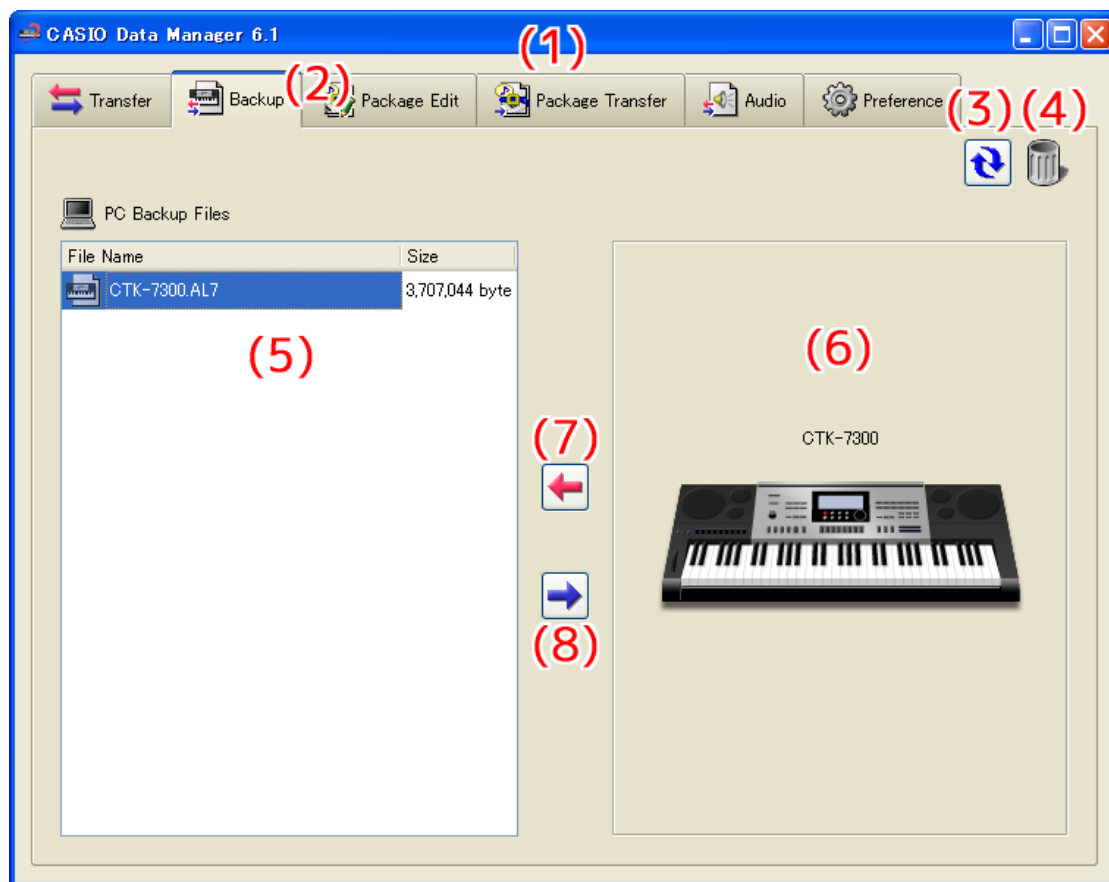
## 注意

- 本モードで楽器とデータ転送を行っている間は、楽器の操作を行わないでください。本ソフトウェアや楽器の動作が不正になったり、楽器のデータを破壊したりしてしまう可能性があります。
- 本モードの機能を使用するためには、楽器とのUSB接続が必要です。
- 楽器とパソコンの接続方法については、楽器の取扱説明書を参照してください。
- 2台以上の楽器をパソコンに接続した場合、本ソフトウェアが正しく動作しない場合があります。
- 楽器にバックアップファイルを転送する際、楽器で復元されるデータはユーザーデータのみであり、すべてのデータが復元されるわけではありません。

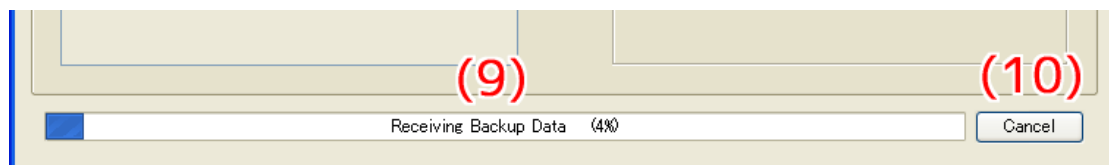
## 画面説明

### 通常画面

- イラストはWindows XPの場合の画面です。



転送中は、画面下側が次のような表示になります。



### (1) タイトルバー

端の“×”ボタンをクリックすると、本ソフトウェアが終了します。楽器とパソコンが接続されていない場合、ここに“<Disconnected>”と表示されます。

## (2) モード選択タブ

使用するモードを切り替える場合は、ここから対応するタブを選択します。切り替え先のモードの詳細については、そのモードの章をご覧ください。

## (3) リロードボタン

“(5)パソコンファイルリスト”の表示を最新の内容に更新します。本モードを使用中に本ソフトウェア以外からパソコン側のユーザーデータファイルフォルダ（27 ページ）を操作した場合、本ソフトウェア上の表示は自動的に更新されません。そのような操作を行った場合は、このボタンをクリックして表示を更新してください。

## (4) ゴミ箱

バックアップファイルの削除を行います。

## (5) パソコンファイルリスト

パソコンのユーザーデータファイルフォルダ（27 ページ）内に保存されているバックアップファイルの一覧を表示します。

## (6) 楽器アイコン

現在接続されている楽器のモデル名を表示します。

## (7) バックアップファイル受信ボタン

楽器からパソコンに、バックアップファイルを転送することができます。

## (8) バックアップファイル送信ボタン

“(5)パソコンファイルリスト”で楽器に転送したいバックアップファイルを選択した状態でこのボタンをクリックすると、そのバックアップファイルを楽器に転送することができます。

## (9) 進捗表示バー

現在の転送の進捗状況を表示します。転送処理の実行中のみ表示されます。

## (10) キャンセルボタン

現在の転送をキャンセルします。転送処理の実行中のみ表示されます。

# 操作方法

## 楽器からパソコンに転送する

楽器からパソコンにバックアップファイルを転送する方法は、二通りあります。

### ■ ドラッグアンドドロップで転送する

“(6)楽器アイコン”を“(5)パソコンファイルリスト”にドラッグアンドドロップします。

### ■ ボタンで転送する

“(7)バックアップファイル受信ボタン”をクリックします。

“(9)進捗表示バー”が表示され、転送が行われます。

## 注意

- 楽器からパソコンへのバックアップファイルの転送は、別紙「データマネージャー 6.1対応機種リスト」の、“ドローバーオルガン機能搭載機種”、および“オリエンタル機種”では10分前後、その他の機種では1分前後かかります。お時間に余裕のある時にご利用ください。
- バックアップファイルの転送中は、キャンセル以外の操作ができなくなります。

## パソコンから楽器に転送する

パソコンから楽器にバックアップファイルを転送する方法は、二通りあります。

### ■ ドラッグアンドドロップで転送する

1. “(5)パソコンファイルリスト” に表示されたバックアップファイルから、楽器に転送したいバックアップファイルを決めておきます。
2. そのバックアップファイルを“(6)楽器アイコン” にドラッグアンドドロップします。
3. 確認画面が表示されますので、“Yes” ボタンをクリックします。

### ■ ボタンで転送する

1. “(5)パソコンファイルリスト” に表示されたバックアップファイルから、楽器に転送したいバックアップファイルを選択します。
2. “(8)バックアップファイル送信ボタン” をクリックします。
3. 確認画面が表示されますので、“Yes” ボタンをクリックします。

“(9)進捗表示バー” が表示され、転送が行われます。確認画面の“No” ボタンをクリックした場合は、転送は行われません。

### 注意

- パソコンから楽器へのバックアップファイルの転送は、別紙「データマネージャー 6.1対応機種リスト」の、“ドローバーオルガン機能搭載機種”、および“オリエンタル機種” では10分前後、その他の機種では1分前後かかります。お時間に余裕のある時にご利用ください。
- バックアップファイルの転送中は、キャンセル以外の操作ができなくなります。

## パソコンからバックアップファイルを削除する

1. “(5)パソコンファイルリスト” に表示されたデータから、削除したいファイルを決めておきます。
2. “(5)パソコンファイルリスト” から“(4)ゴミ箱” に、そのファイルをドラッグアンドドロップします。  
お使いのシステムのゴミ箱に捨てる時と同じ動作をします。

## パソコン上のバックアップファイルの名前を変更する

1. “(5)パソコンファイルリスト” に表示されたファイルのうち、名前を変更したいファイルを1つ選び、それをダブルクリックします。
2. ファイル名を入力できる状態になりますので、新しいファイル名を入力します。
3. 入力終了後、エンターキーを押します。

## 転送をキャンセルする

転送中に表示される“(10)キャンセルボタン” をクリックすると、確認画面が表示されますので、“Yes” ボタンをクリックします。

### 注意

- パソコンから楽器にバックアップファイルを転送している最中に転送をキャンセルすると、楽器へのユーザーデータの読み込みが不完全な状態で終了しますが、再転送によって正常に完了します。

# Package Editモード

## 機能概要

特定の組み合わせとして利用したい複数のユーザーデータファイルを単一のファイルとしてまとめて保持しておくためのパッケージファイルを作成、編集します。

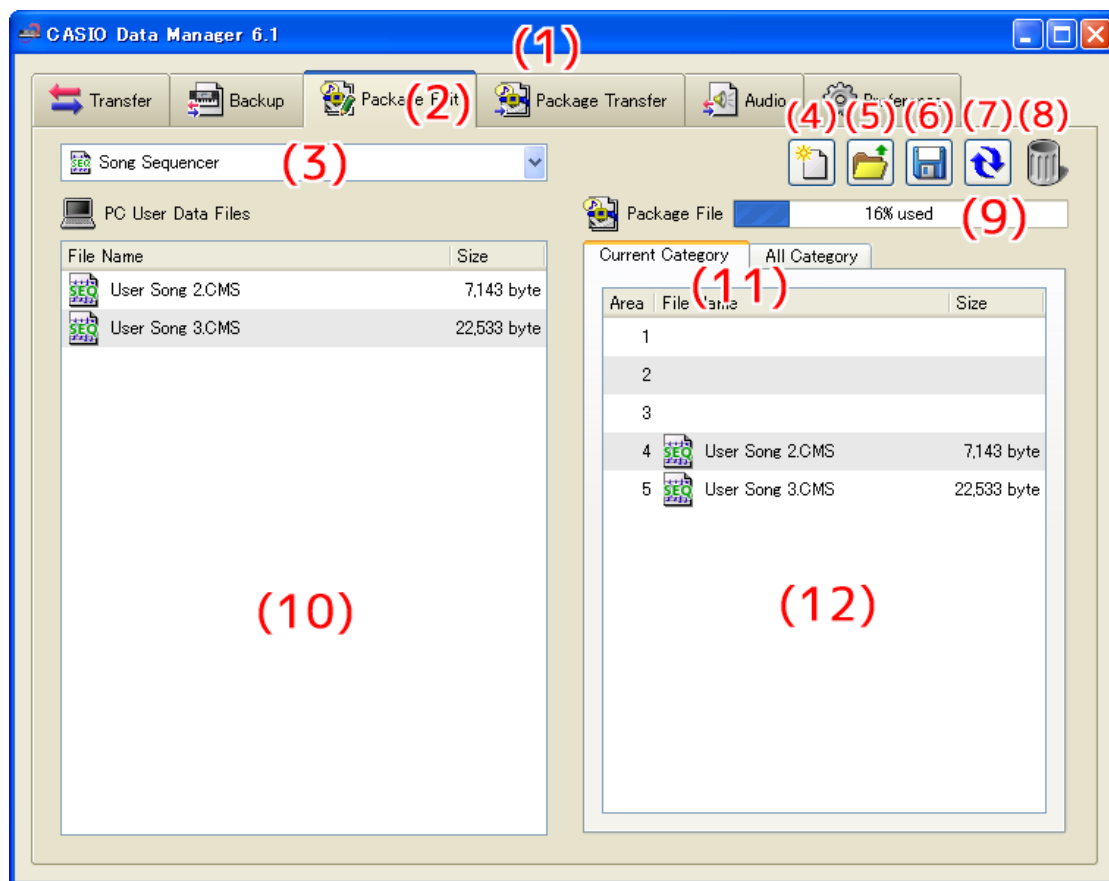
## 注意

- 本モードの機能を使用するために楽器とのUSB接続は必要ありませんが、本モードで新規作成可能なパッケージファイルは、最後に接続された楽器に対応したパッケージファイルとなります。
- 各楽器間におけるパッケージファイルの互換性については、別紙「カシオ電子キーボードデータ互換表」を参照してください。
- 楽器にパッケージファイルを転送するには、Package Transferモードをご使用ください。
- パッケージファイルは本ソフトウェア専用のファイルであり、楽器から直接使用することはできません。パッケージファイルに登録されたファイルを楽器で使用する場合は、本ソフトウェアで転送する必要があります。

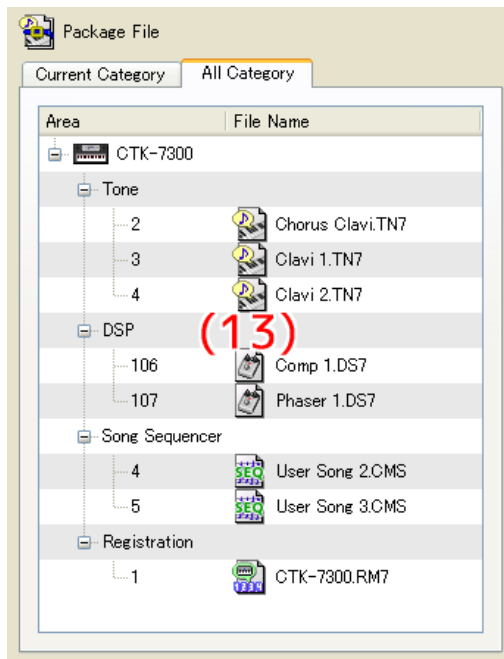
## 画面説明

### 通常画面

- イラストはWindows XPの場合の画面です。



## “All Category” 表示状態



### (1) タイトルバー

端の“×” ボタンをクリックすると、本ソフトウェアが終了します。楽器とパソコンが接続されていない場合、ここに“<Disconnected>” と表示されます。

### (2) モード選択タブ

使用するモードを切り替える場合は、ここから対応するタブを選択します。切り替え先のモードの詳細については、そのモードの章をご覧ください。

### (3) データ種類選択ボックス

本モードでの操作の対象とするデータ種類を選択します。ここで選択したデータ種類に応じて、“(10)パソコンファイルリスト” や“(12)パッケージ内ファイルリスト” に表示されるファイルが変わります。選択できるデータ種類は、お使いの楽器によって異なります。詳しくは30 ページをご覧ください。

### (4) 新規パッケージファイルボタン

新規のパッケージファイルを作成します。

### (5) パッケージファイルオープンボタン

これまでに作成したパッケージファイルを開き、その内容を表示します。

### (6) パッケージファイルセーブボタン

編集中的パッケージファイルを保存します。

### (7) リロードボタン

“(10)パソコンファイルリスト” の表示を最新の内容に更新します。本モードを使用中に本ソフトウェア以外からパソコン側のユーザーデータファイルフォルダ (27 ページ) を操作した場合、本ソフトウェア上の表示は自動的に更新されません。そのような操作を行った場合は、このボタンをクリックして表示を更新してください。

### (8) ゴミ箱

パソコンのファイルの削除や、パッケージファイルからのユーザーデータファイルの削除を行います。

### (9) メモリー使用量表示バー

このバーは“(3)データ種類選択ボックス” で“Song Sequencer” または“Music Preset” を選択した時に表示されます。編集中的パッケージファイルを楽器に転送した場合の、現在選択しているデータ種類 (“Song Sequencer” または“Music Preset”) のメモリー使用量の目安を表示します。ただし、あくまで目安であり、楽器の状態によってはメモリー使用量が最大容量に収まっても転送できない場合があります。メモリー使用量が100%を超えるようなファイルの登録は出来ません。



## (10) パソコンファイルリスト

パソコンのユーザーデータファイルフォルダ（27 ページ）内に保存されているファイルの一覧を表示します。

## (11) パッケージ内ファイル表示切替タブ

パッケージ内のファイル表示方法を切り替えるタブです。“Current Category”では“(12)パッケージ内ファイルリスト”が表示され、“All Category”では“(13)パッケージ内全ファイルツリー”が表示されます。

## (12) パッケージ内ファイルリスト

現在編集中のパッケージファイル内のファイル一覧を表示します。

## (13) パッケージ内全ファイルツリー

現在編集中のパッケージファイルに含まれる全てのユーザーデータファイルを、データ種類毎にツリー形式で表示します。この表示状態でのパッケージファイルの編集はできません。

# 操作方法

## 基本的な操作

パッケージファイルの編集は、基本的に次の操作の流れで行います。

### 1. パッケージファイルを新規作成する

本ソフトウェアの起動直後の場合、Package Editタブをクリックした時点で新規パッケージファイルを編集可能な状態になっています。現在の編集中のパッケージファイルを破棄して新規パッケージファイルを編集する場合は、“(4)新規パッケージファイルボタン”をクリックしてください。

- 編集中のパッケージファイルが保存されていない場合、ここで確認画面が表示されます。詳細は18 ページの“保存確認画面について”をご覧ください。

### 2. パッケージファイルにユーザーデータファイルを登録する

1. “(3)データ種類選択ボックス”で、パッケージファイルに登録したいデータ種類を選択します。
2. “(11)パッケージ内ファイル表示切替タブ”で、“Current Category”を選択します。
3. “(10)パソコンファイルリスト”からパッケージファイルに登録したいファイルを決めておきます。
4. “(12)パッケージ内ファイルリスト”から、どのエリアにファイルを登録するか決めておきます。
5. “(10)パソコンファイルリスト”から“(12)パッケージ内ファイルリスト”のエリアにファイルをドラッグアンドドロップします。
6. 以上を必要な回数繰り返してください。

### 3. 編集したパッケージファイルを保存する

“(6)パッケージファイルセーブボタン”をクリックすると、パッケージファイルの保存ファイル名を指定するための画面が表示されます。ファイル名を付け、保存してください。

## 注意

- パッケージファイルの拡張子は“.PK7”となります。これ以外の拡張子を付けますと、本ソフトウェアでの使用ができなくなります。

## その他の操作

### ■ パッケージファイルに登録したファイルを削除する

“(12)パッケージ内ファイルリスト” から“(8)ゴミ箱” に削除したいファイルをドラッグアンドドロップしてください。

### ■ これまでに作成したパッケージファイルを再度編集する

“(5)パッケージファイルオープンボタン” をクリックすると、再度編集するパッケージファイルを選択するための画面が表示されます。編集したいパッケージファイルを選択してください。

- 編集中のパッケージファイルが保存されていない場合、ここで確認画面が表示されます。詳細は18 ページの“保存確認画面について”をご覧ください。

### ■ パッケージファイルに登録されているファイルを取り出して保存する

“(12)パッケージ内ファイルリスト” から“(10)パソコンファイルリスト” に取り出したいファイルをドラッグアンドドロップしてください。パッケージファイルからそのファイルが取り出され、ユーザーデータファイルフォルダ (27 ページ) に保存されます。

### ■ パッケージファイルに登録されているファイルをまとめて確認する

“(11)パッケージ内ファイル表示切替タブ” で、“All Category” を選択すると、“(13)パッケージ内全ファイルツリー” が表示されます。これにより、“(3)データ種類選択ボックス” で表示データ種類を変更しなくても、パッケージファイルにどのようなファイルが登録されているかをまとめて確認することができます。

### ■ パソコン上のユーザーデータファイルの名前を変更する

1. “(10)パソコンファイルリスト” に表示されたファイルのうち、名前を変更したいファイルを1つ選び、それをダブルクリックします。
2. ファイル名を入力できる状態になりますので、新しいファイル名を入力します。
3. 入力終了後、エンターキーを押します。

#### 注意

- ここで変更した名前は、楽器で表示される名前には反映されません。楽器で表示される名前の変更は、本ソフトウェアでは対応しておりませんので、楽器上の名前変更機能をお使いください。楽器上の名前変更機能の操作方法は、楽器の取扱説明書をご覧ください。

### ■ パソコンからユーザーデータファイルを削除する

1. “(3)データ種類選択ボックス” で、パソコンから削除したいデータ種類を選択します。
2. “(10)パソコンファイルリスト” に表示されたデータから、削除したいファイルを決めておきます。
3. “(10)パソコンファイルリスト” から“(8)ゴミ箱” に、そのファイルをドラッグアンドドロップします。

お使いのシステムのゴミ箱に捨てる時と同じ動作をします。

## 保存確認画面について

編集中のパッケージファイルが保存されていない状態で、“(4)新規パッケージファイルボタン” や“(5)パッケージファイルオープンボタン” をクリックしたり、本ソフトウェアを終了しようとしたりすると、そのパッケージファイルを保存するかどうか確認する画面が表示されます。この画面で“Cancel” ボタンをクリックすると、編集中のパッケージファイルはそのままに、上記の操作を行う前の状態に戻ります。“Yes” ボタンをクリックすると、パッケージファイルの保存ファイル名を指定するための画面が表示されますので、ファイル名を付けて保存してください。“No” ボタンをクリックすると、編集中のパッケージファイルは破棄されます。

# Package Transferモード

## 機能概要

Package Editモードで作成したパッケージデータを楽器に転送します。

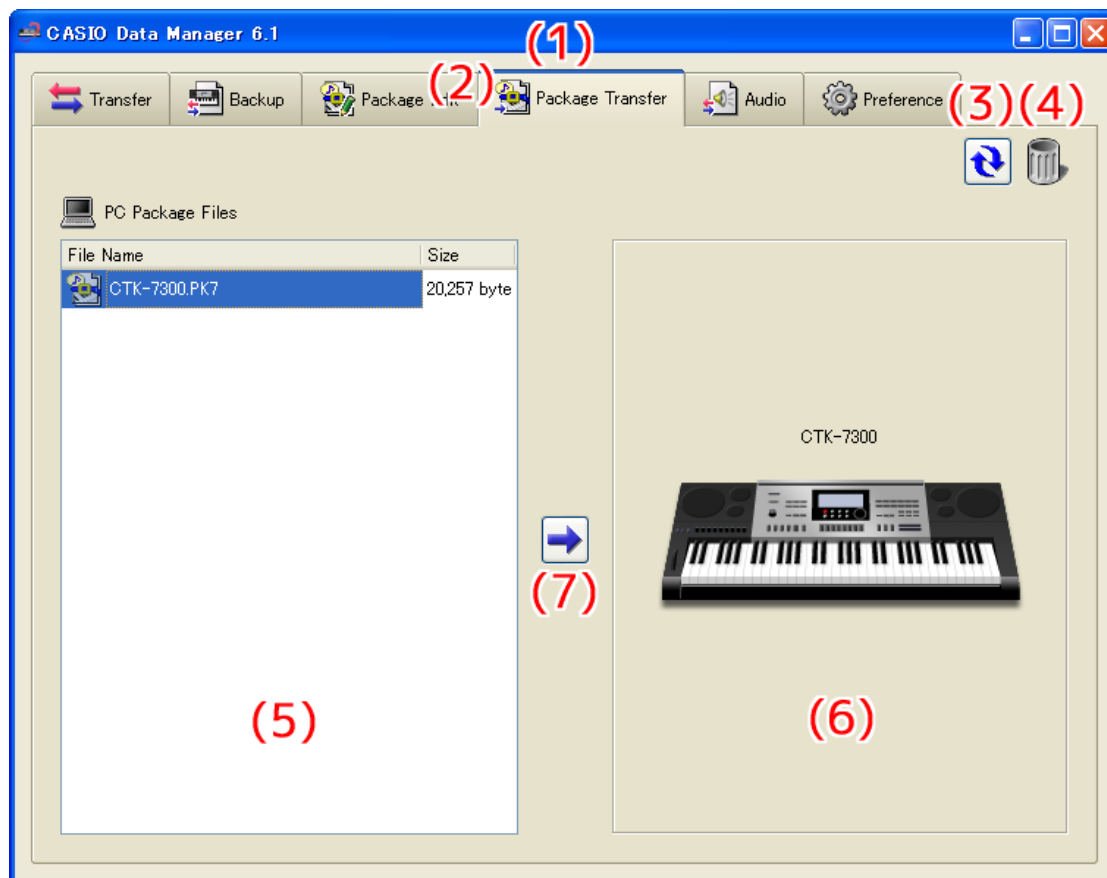
## 注意

- 本モードの機能を使用するためには、楽器とのUSB接続が必要です。
- 楽器とパソコンの接続方法については、楽器の取扱説明書をご覧ください。
- 2台以上の楽器をパソコンに接続した場合、本ソフトウェアが正しく動作しない場合があります。
- 本モードで楽器とデータ転送を行っている間は、楽器の操作を行わないでください。本ソフトウェアや楽器の動作が不正になったり、楽器のデータを破壊したりしてしまう可能性があります。

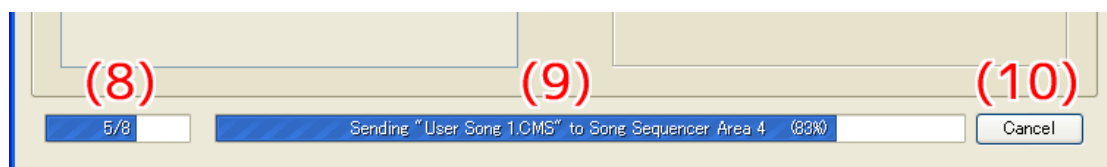
## 画面説明

### 通常画面

- イラストはWindows XPの場合の画面です。



転送中は、画面下側が次のような表示になります。



### (1) タイトルバー

端の“×”ボタンをクリックすると、本ソフトウェアが終了します。楽器とパソコンが接続されていない場合、ここに“<Disconnected>”と表示されます。

### (2) モード選択タブ

使用するモードを切り替える場合は、ここから対応するタブを選択します。切り替え先のモードの詳細については、そのモードの章をご覧ください。

### (3) リロードボタン

“(5)パソコンファイルリスト”の表示を最新の内容に更新します。本モードを使用中に本ソフトウェア以外からパソコン側のユーザーデータファイルフォルダ（27 ページ）を操作した場合、本ソフトウェア上の表示は自動的に更新されません。そのような操作を行った場合は、このボタンをクリックして表示を更新してください。

### (4) ゴミ箱

パッケージファイルの削除を行います。

### (5) パソコンファイルリスト

パソコンのユーザーデータファイルフォルダ（27 ページ）内に保存されているパッケージファイルの一覧を表示します。

### (6) 楽器アイコン

現在接続されている楽器のモデル名を表示します。

### (7) パッケージファイル送信ボタン

“(5)パソコンファイルリスト”で楽器に転送したいパッケージファイルを選択した状態でこのボタンをクリックすると、そのパッケージファイル内のファイルを順番に楽器へ転送することができます。

### (8) 全体進捗表示バー

パッケージファイル全体にいくつのファイルが登録されており、どこまで転送が終了したかを表示します。転送処理の実行中のみ表示されます。

### (9) 個別進捗表示バー

現在の転送の進捗状況を表示します。この表示はパッケージファイル内に含まれる各ファイルの個別の転送状態で、パッケージファイル全体を通しての進捗表示ではありません。転送処理の実行中のみ表示されます。

### (10) 転送キャンセルボタン

パッケージファイルの転送をキャンセルします。転送処理の実行中のみ表示されます。

## 操作方法

### パソコンから楽器に転送する

パソコンから楽器にパッケージファイルを転送する方法は、二通りあります。

#### ■ ドラッグアンドドロップで転送する

1. “(5)パソコンファイルリスト”に表示されたパッケージファイルから、楽器に転送したいパッケージファイルを決めておきます。
2. そのパッケージファイルを“(6)楽器アイコン”にドラッグアンドドロップします。
3. 確認画面が表示されますので、“Yes” ボタンをクリックします。

## ■ ボタンで転送する

1. “(5)パソコンファイルリスト” に表示されたパッケージファイルから、楽器に転送したいパッケージファイルを選択します。
2. “(7)パッケージファイル送信ボタン” をクリックします。
3. 確認画面が表示されますので、“Yes” ボタンをクリックします。

“(9)個別進捗表示バー” が表示され、転送が行われます。確認画面の “No” ボタンをクリックした場合、転送は行われません。この時、“(10)転送キャンセルボタン” をクリックすると、転送をキャンセルすることができます。

### 注意

- パッケージファイルの転送は、パッケージファイルに登録されているファイル数に応じた時間がかかります。お時間に余裕のある時にご利用ください。
- パッケージファイルの転送中は、キャンセル以外の操作ができなくなります。

## パソコンからパッケージファイルを削除する

1. “(5)パソコンファイルリスト” に表示されたファイルから、削除したいファイルを決めておきます。
2. “(5)パソコンファイルリスト” から “(4)ゴミ箱” に、そのファイルをドラッグアンドドロップします。  
お使いのシステムのゴミ箱に捨てる時と同じ動作をします。

## パソコン上のパッケージファイルの名前を変更する

1. “(5)パソコンファイルリスト” に表示されたファイルのうち、名前を変更したいファイルを1つ選び、それをダブルクリックします。
2. ファイル名を入力できる状態になりますので、新しいファイル名を入力します。
3. 入力終了後、エンターキーを押します。

## 転送をキャンセルする

転送を実行している最中に表示される “(10)転送キャンセルボタン” をクリックすると、確認ダイアログが表示されますので、“Yes” ボタンをクリックします。

### 注意

- “Song Sequencer” データの転送中は、転送をキャンセルできない場合があります。

# Audioモード

## 機能概要

- 楽器でメモリーカードに録音したオーディオファイルをパソコンにWAVEファイルとして保存します。
- パソコン上のWAVEファイルを楽器で再生できる“再生専用ファイル”に変換し、メモリーカードに保存します。

## 注意

- 本モードの機能を使用するためには、別紙「データマネージャー 6.1対応機種リスト」の“オーディオ機能搭載機種”であらかじめフォーマットしたメモリーカードをパソコンに接続しておく必要があります。
- メモリーカードを楽器のカードスロットに挿した状態でパソコンから読み取ることはできません。パソコンのメモリーカードリーダーを使用して接続してください。
- 別紙「データマネージャー 6.1対応機種リスト」の“オーディオ機能搭載機種”以外の機種でフォーマットしたメモリーカードでは、本モードの機能を使用することができません。
- 本モードによってWAVEファイルを変換する際、パソコン上に十分な記録容量が必要となります。
- 本モードを通じて楽器で再生可能にできるWAVEファイルは、以下のフォーマットのものに限りです。

データフォーマット：リニアPCM

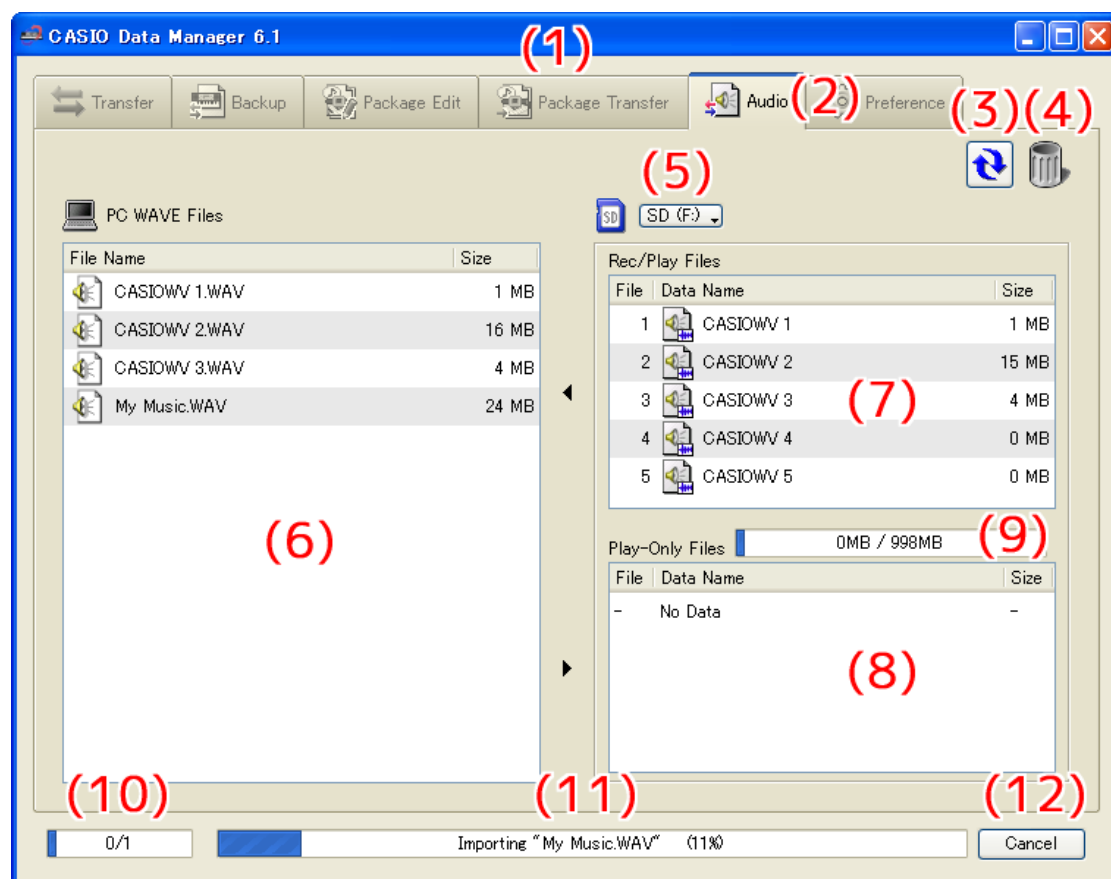
量子化ビット数：8bit/sample unsigned, 16bit/sample signed, 24bit/sample signed, 32bit/sample signed

再生時間：99分59秒以下

- WAVEファイルによっては、上記のフォーマットに適合しているものでも正常に変換できない場合があります。
- 本モードを通じて楽器で再生可能にしたオーディオファイルは再生のみが可能であり、楽器でそのファイルに対して録音をすることはできません。
- 楽器で録音したオーディオファイルをパソコンに保存する際、以下のフォーマットのWAVEファイルで保存されます。  
44100Hz, 16bit/sample signed, Stereo
- お使いのパソコンの設定によっては、次のファイルがメモリーカード上に表示されることがありますが、これらのファイルに対し削除などの操作を行うと、楽器での再生などが正常にできなくなりますので、おやめください。
  - “CASIOVV1.WAV” ~ “CASIOVV9.WAV”  
“CASIOV10.WAV” ~ “CASIOV20.WAV”
  - 先頭がアンダースコア ( ) で始まり、拡張子が “.VV7” のファイル
  - “CASIOVAV.DIR”

# 画面説明

- イラストはWindows XPの場合の画面です。



## (1) タイトルバー

端の“×”ボタンをクリックすると、本ソフトウェアが終了します。楽器とパソコンが接続されていない場合、ここに“<Disconnected>”と表示されます。

## (2) モード選択タブ

使用するモードを切り替える場合は、ここから対応するタブを選択します。切り替え先のモードの詳細については、そのモードの章をご覧ください。

## (3) リロードボタン

“(6)パソコンファイルリスト”、“(7)メモリーカード録音・再生ファイルリスト”、“(8)メモリーカード再生専用ファイルリスト”の表示を最新の内容に更新します。本モードを使用中に、本ソフトウェア以外からWAVEファイルフォルダ（27 ページ）やメモリーカード内のファイル进行操作した場合、本ソフトウェア上の表示は自動的に更新されません。そのような操作を行った場合は、このボタンをクリックして表示を更新してください。

## (4) ゴミ箱

パソコンのWAVEファイルの削除や、メモリーカード内のオーディオファイルの消去を行います。

## (5) メモリーカード選択ボタン

本ソフトウェアで操作したいメモリーカードを選択します。

## (6) パソコンファイルリスト

パソコンのWAVEファイルフォルダ（27 ページ）内に保存されているファイルの一覧を表示します。

## (7) メモリーカード録音・再生ファイルリスト

現在操作中のメモリーカード内の録音・再生ファイルの一覧を表示します。

## (8) メモリーカード再生専用ファイルリスト

現在操作中のメモリーカード内の再生専用ファイルの一覧を表示します。ここに表示されているファイルは、楽器では再生のみが可能です。

## (9) メモリーカード容量表示バー

現在操作中のメモリーカードの容量を表示します。

## (10) 全体進捗表示バー

現在、いくつかの処理が予約・実行されているかを表示します。処理の実行中のみ表示されます。

## (11) 個別進捗表示バー

現在の処理の進捗状況を表示します。処理の実行中のみ表示されます。

## (12) キャンセルボタン

現在の処理をキャンセルします。処理の実行中のみ表示されます。

# 操作方法

## 本モードで使用するメモリーカードを選択する

### ■ “(5)メモリーカード選択ボタン” をクリックし、楽器で録音したオーディオファイルが入っているメモリーカードを選択します。

● ここで選択したメモリーカードは、本ソフトウェアを再起動した際に自動的に選択されます。メモリーカードの読み込みに失敗した場合は、“(7)メモリーカード録音・再生ファイルリスト”、“(8)メモリーカード再生専用ファイルリスト” に何も表示されません。メモリーカードの読み込みに失敗する原因としては、主に下記のものが考えられます。

- メモリーカードが正しく選択されていない
  - お使いになるメモリーカードを選択してください。
- メモリーカード内に“MUSICDAT”フォルダが存在しない
- オーディオ機能に対応していない楽器でフォーマットされている
- メモリーカード内のオーディオファイルが壊れている
  - オーディオ機能に対応している楽器で再度フォーマットを行ってください。

#### 注意

- メモリーカードのフォーマットを行うと、メモリーカード内のファイルが全て削除されます。大事なファイルは必ず他の場所に保存してからフォーマットを行ってください。

メモリーカードのフォーマットを行っても解決しない場合は、メモリーカードが壊れている可能性があります。他のメモリーカードをお使いください。

## 楽器で録音したオーディオファイルをパソコンに保存する

1. “(7)メモリーカード録音・再生ファイルリスト” から、パソコンに保存したいファイルを決めておきます。

2. そのファイルを“(6)パソコンファイルリスト” にドラッグアンドドロップします。

保存処理が予約され、順番に実行されます。処理が1つ終了するたびに、“(6)パソコンファイルリスト” に保存されたWAVEファイルが表示されます。

#### 注意

- この際、データ変換処理が行われますが、これは録音時間に応じた処理時間を必要とします。お時間に余裕のある時にご使用ください。
- データ変換処理によってオーディオファイルの音量が変わることがあります。



## パソコン上のWAVEファイルを楽器で再生できるようにする

1. “(6)パソコンファイルリスト” から、楽器で再生させたいファイルを決めておきます。
2. そのファイルを “(8)メモリーカード再生専用ファイルリスト” にドラッグアンドドロップします。

保存処理が予約され、順番に実行されます。WAVEファイルが楽器で再生可能なフォーマットに変換され、“(8)メモリーカード再生専用ファイルリスト” の末尾に追加されます。

- “(8)メモリーカード再生専用ファイルリスト” に追加されたファイルには番号が順番に付きますが、この番号は999が最大となり、それを越える場合は追加できません。

### 注意

- この際、データ変換処理が行われますが、これはWAVEファイルのサイズやフォーマットに応じた処理時間を必要とします。お時間に余裕のある時にご使用ください。
- オーディオファイル名はWAVEファイルの名前を元に最大12文字で自動的に付けられますが、WAVEファイル名に下記の文字以外の文字が含まれている場合、その文字は自動的に “\_” に置き換えられます。

|   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|
| ! | " | # | \$ | % | & | ' | ( | ) |   |
| * | + | , | -  | . | / | 0 | 1 | 2 | 3 |
| 4 | 5 | 6 | 7  | 8 | 9 | : | ; | < | = |
| > | ? | @ | A  | B | C | D | E | F | G |
| H | I | J | K  | L | M | N | O | P | Q |
| R | S | T | U  | V | W | X | Y | Z | [ |
| \ | ] | ^ | _  | ` | a | b | c | d | e |
| f | g | h | i  | j | k | l | m | n | o |
| p | q | r | s  | t | u | v | w | x | y |
| z | { |   | }  | ~ |   |   |   |   |   |

## メモリーカード再生専用ファイルリスト内のファイルをパソコンファイルリストに戻す

1. “(8)メモリーカード再生専用ファイルリスト” から、パソコンファイルリストに戻したいファイルを決めておきます。
2. そのファイルを “(6)パソコンファイルリスト” にドラッグアンドドロップします。

処理が予約され、順番に実行されます。処理が1つ終了するたびに、“(6)パソコンファイルリスト” に戻されたファイルが表示されます。

### 注意

- パソコン上に戻されたファイルは、元々のファイルと同じものではなく、楽器で再生できるように変換されたファイルです。

## メモリーカード再生専用ファイルリストのファイルを消去する

1. “(8)メモリーカード再生専用ファイルリスト” に表示されたファイルから、消去したいファイルを決めておきます。
2. “(8)メモリーカード再生専用ファイルリスト” から “(4)ゴミ箱” に、そのファイルをドラッグアンドドロップします。

### 注意

- “(7)メモリーカード録音・再生ファイルリスト” のファイルを消去することはできません。

## パソコンからWAVEファイルを削除する

1. “(6)パソコンファイルリスト” に表示されたファイルから、削除したいファイルを決めておきます。
2. “(6)パソコンファイルリスト” から “(4)ゴミ箱” に、そのファイルをドラッグアンドドロップします。  
お使いのシステムのゴミ箱に捨てる時と同じ動作をします。

## パソコン上のWAVEファイルの名前を変更する

1. “(6)パソコンファイルリスト” に表示されたファイルのうち、名前を変更したいファイルを1つ選び、それをダブルクリックします。
2. ファイル名を入力できる状態になりますので、新しいファイル名を入力します。
3. 入力終了後、エンターキーを押します。

### 注意

- “(7)メモリーカード録音・再生ファイルリスト” および “(8)メモリーカード再生専用ファイルリスト” に表示されるファイル名は、上記と同じ方法で変更することができません。楽器上の名前変更機能をお使いください。楽器上の名前変更機能の操作方法は、楽器の取扱説明書をご覧ください。

## 処理をキャンセルする

処理を実行している最中に表示される “(12)キャンセルボタン” をクリックすると、確認画面が表示されますので、“Yes” ボタンをクリックします。

現在実行中の処理がキャンセルされ、予約が全て破棄されます。

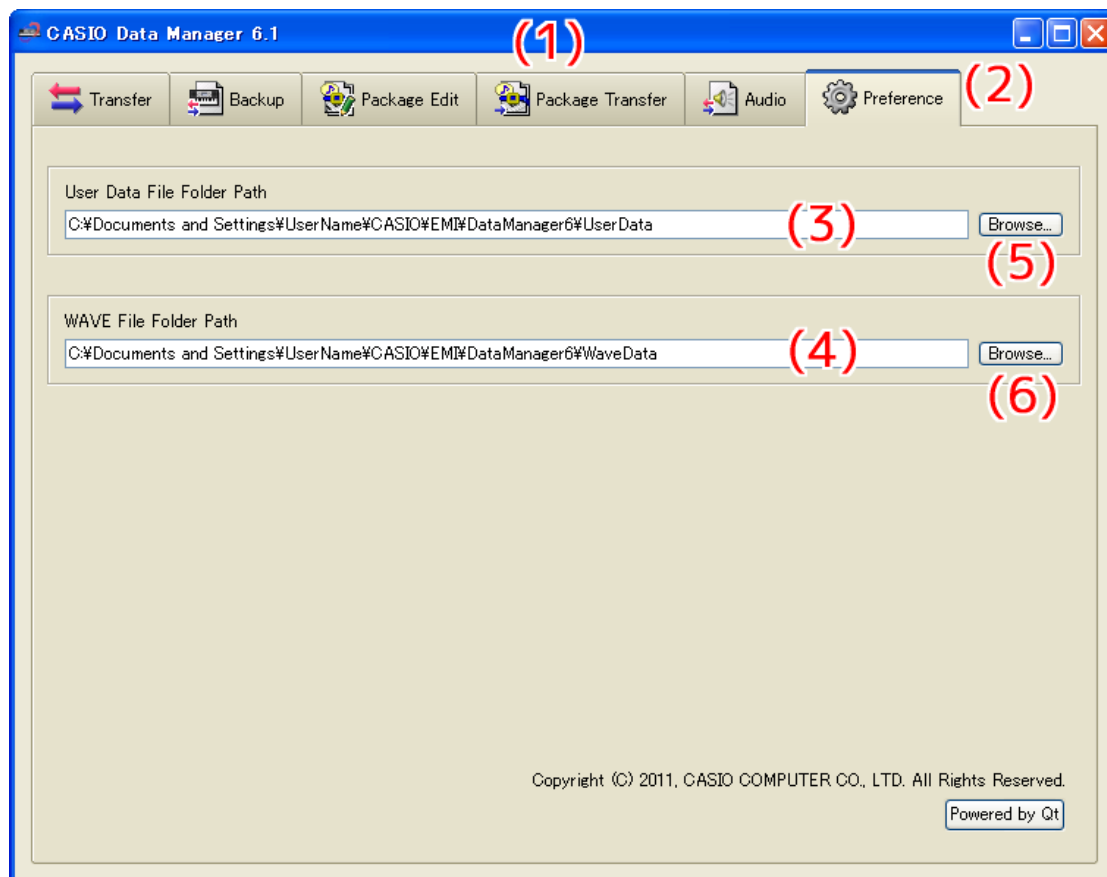
# Preference

## 機能概要

本ソフトウェアで取り扱うファイルの保存フォルダを確認、設定します。

## 画面説明

- イラストはWindows XPの場合の画面です。



### (1) タイトルバー

端の“×” ボタンをクリックすると、本ソフトウェアが終了します。楽器とパソコンが接続されていない場合、ここに“<Disconnected>”と表示されます。

### (2) モード選択タブ

使用するモードを切り替える場合は、ここから対応するタブを選択します。切り替え先のモードの詳細については、そのモードの章をご覧ください。

### (3) ユーザーデータファイルフォルダパス表示

ユーザーデータファイルおよびパッケージファイルの保存先として指定されているパスを表示します。このフォルダに入っているファイルが、Transferモード、Backupモード、Package Editモード、Package Transferモードのパソコンファイルリストに表示されます。

### (4) WAVEファイルフォルダパス表示

WAVEファイルの保存先として指定されているパスを表示します。このフォルダに入っているファイルが、Audioモードのパソコンファイルリストに表示されます。

### (5) ユーザーデータファイルフォルダパス選択ボタン

ユーザーデータファイルおよびパッケージファイルの保存先を指定するための画面を開きます。

### (6) WAVEファイルフォルダパス選択ボタン

WAVEファイルの保存先フォルダを指定するための画面を開きます。

### ユーザーデータファイルおよびパッケージファイルの保存先フォルダを設定する

1. “(5)ユーザーデータファイルフォルダパス選択ボタン” をクリックします。
2. フォルダ選択画面が開きますので、保存先とするフォルダを指定します。

### WAVEファイルの保存先フォルダを設定する

1. “(6)WAVEファイルフォルダパス選択ボタン” をクリックします。
2. フォルダ選択画面が開きますので、保存先とするフォルダを指定します。

## その他の使用方法

### メモリーカードを使ってパソコンと楽器のデータをやり取りする

楽器でメモリーカードに保存したユーザーデータファイルやバックアップファイルは、それらをユーザーデータファイルフォルダ（27 ページ）にコピーすることにより、そのまま本ソフトウェアでお使いいただけます。また、本ソフトウェアで楽器からパソコンに保存したユーザーデータファイルやバックアップファイルは、それらをメモリーカードにコピーし楽器のカードスロットに挿すことにより、そのまま楽器でお使いいただけます。

#### 注意

- メモリーカードは、あらかじめ楽器でフォーマットしたものを使用してください。
- パッケージファイルは、楽器で直接使用することはできません。
- メモリーカード内のユーザーデータファイルの名前が、拡張子を除いて8文字を超える場合、楽器では元とは異なるファイル名で表示されます。8文字以下のファイル名に変更してから使用してください。
- 楽器では、下記の文字以外の文字を含むファイル名は、正しく表示できません。下記の文字のみを使ったファイル名に変更してから使用してください。

|   |   |   |   |   |   |    |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|----|---|---|---|
| 0 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6  | 7 | 8 | 9 |
| A | B | C | D | E | F | G  | H | I | J |
| K | L | M | N | O | P | Q  | R | S | T |
| U | V | W | X | Y | Z | \$ | & | _ | ' |
| ( | ) | - | ^ | { | } | @  | ~ | ` |   |

※ アルファベット小文字を使用することもできますが、大文字と小文字は同じ文字として見なされます。

### ユーザーデータファイルフォルダ上のファイルをメモリーカードにコピーする









各モードのパソコンリストに表示されたファイルは、本ソフトウェアの画面外部に対してドラッグアンドドロップすることができます。メモリーカードの“MUSICDAT”フォルダに、コピーしたいファイルをパソコンリストからドラッグアンドドロップしますと、メモリーカードにコピーされます。

### パソコン上の任意の場所のファイルをユーザーデータファイルフォルダにコピーする

本ソフトウェアの画面外部から各モードのパソコンリストにファイルをドラッグアンドドロップすることができます。楽器でメモリーカードに保存したユーザーデータファイルの本ソフトウェアのユーザーデータファイルフォルダ（27 ページ）にコピーしたい場合は、メモリーカードの“MUSICDAT”フォルダを開き、コピーしたいファイルを本ソフトウェアのパソコンリストにドラッグアンドドロップしてください。

- 本ソフトウェアで使用する事の出来ない拡張子のファイルはコピーすることができません。

# ユーザーデータ一覧

|                | アイコン  | ファイル拡張子        | データの種類          | 消去 | 備考  |
|----------------|---|----------------|-----------------|----|---|
| Tone           |    | .TN7           | ユーザー音色          | 不可 | —   |
| Drawbar Organ  |    | .DB7           | ユーザードロワーオルガン音色  | 不可 | 別紙「データマネージャー 6.1対応機種リスト」の“ドロワーオルガン機能搭載機種”で使用可能です。             |
| DSP            |    | .DS7           | ユーザー DSP        | 不可 | —   |
| Rhythm         |    | .AC7、.Z00、.CKF | ユーザーリズム         | 可  | “リズムデータに関する補足”をご覧ください。  |
| Scale Memory   |    | .CSD           | ユーザースケールメモリー    | 不可 | 別紙「データマネージャー 6.1対応機種リスト」の“オリエンタル機種”で使用可能です。                   |
| Song Sequencer |    | .CMS           | ソングシーケンサー       | 可  | Song Sequencerエリア全体でのメモリー容量制限があるため、楽器の状態によっては転送できない場合があります。   |
| Music Preset   |  | .MPS           | ユーザーミュージックプリセット | 可  | Music Presetエリア全体でのメモリー容量制限があるため、楽器の状態によっては転送できない場合があります。     |
| Registration   |  | .RM7           | レジストレーション       | 不可 | モデル名が異なる楽器間では互換性が無い場合があります。詳しくは別紙「カシオ電子キーボードデータ互換表」を参照してください。 |

## リズムデータに関する補足

- 本ソフトウェアを通して、カシオ電子楽器の過去の機種のリズムデータファイルを楽器に転送することができます。対応しているリズムデータファイルは、拡張子が“.AC7”、“.Z00”、“.CKF”となっているものです。
- 過去の機種のモデル名については、楽器の取扱説明書の“パソコンとの接続について”をご覧ください。
- 約32Kバイトを超えるリズムデータファイルは、楽器に転送することができません。

# エラーメッセージ

操作の方法や楽器の状態、本ソフトウェアの使用環境などにより、使用中にエラーが表示されることがあります。表示されたエラーメッセージに応じて、下記の対策を行ってください。

| メッセージ               | 原因                             | 対策  |
|---------------------|--------------------------------|---|
| Already Running     | 既に本ソフトウェアが実行中です。               | 既に実行中の本ソフトウェアを使用してください。   |
| Communication Error | 楽器との通信中にエラーが発生しました。            | <ul style="list-style-type: none"> <li>• パソコンと楽器が正しく接続されているか確認してください。</li> <li>• 他のアプリケーションを使用している場合は、そのアプリケーションを終了してください。</li> <li>• 楽器のモードをリズムモードにしてください。</li> <li>• パソコンと接続する楽器の数は、1台までにしてください。</li> <li>• 通信中に楽器の操作を行わないようにしてください。</li> <li>• USBハブや延長ケーブルを使用している場合、直接つなぎ直してください。</li> <li>• 上記の対策で解決しない場合は、楽器の電源を入れなおしたり、本ソフトウェアを再起動したりしてください。</li> </ul>  |
| File Read Error     | ファイルやフォルダの読み込み中にエラーが発生しました。    | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 読み込みを行おうとしたファイルやフォルダが存在しているか確認してください。</li> <li>• 読み込みを行おうとしたファイルやフォルダが読み込み可能かどうか確認してください。</li> <li>• そのファイルが他のアプリケーションから使用されていないか確認してください。</li> <li>• ユーザーデータファイルフォルダ、WAVEファイルフォルダのパスに特殊な文字が含まれていないか確認してください。</li> <li>• 特殊な文字が含まれている場合、パス名が全て半角英数字で構成された場所をユーザーデータファイルフォルダまたはWAVEファイルフォルダとして指定してください。</li> </ul>  |
| File Write Error    | ファイルやフォルダの作成、書き込み中にエラーが発生しました。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• ファイルやフォルダを作成しようとした場所が存在するか確認してください。</li> <li>• 書き込みを行おうとしたファイルやフォルダが存在するか確認してください。</li> <li>• 書き込みを行おうとしたファイルやフォルダが書き込み可能かどうか確認してください。</li> <li>• メモリーカードをご使用の場合、プロテクトスイッチによって書き込み禁止になっていないか確認してください。</li> <li>• そのファイルが他のアプリケーションから使用されていないか確認してください。</li> <li>• パソコンやメモリーカードの残り記録容量が十分にあるか確認してください。</li> <li>• ユーザーデータファイルフォルダ、WAVEファイルフォルダのパスに特殊な文字が含まれていないか確認してください。</li> <li>• 特殊な文字が含まれている場合、パス名が全て半角英数字で構成された場所をユーザーデータファイルフォルダまたはWAVEファイルフォルダとして指定してください。</li> </ul> |

| メッセージ                      | 原因  | 対策  |
|----------------------------|---|---|
| File Format Error          | ファイルの形式が本ソフトウェアで非対応です。  | そのファイルは本ソフトウェアでは使用できませんので、別のファイルを使用してください。  |
|                            | ファイルが壊れています。  | そのファイルは本ソフトウェアでは使用できませんので、同じデータが楽器に残ってしましたら、そちらを保存して使用してください。   |
|                            | そのファイルは送信先の楽器と互換性がありません。  | 送信先の楽器に対応したファイルを使用してください。送信先の楽器と異なるモデルで作成されたファイルは、同じ拡張子であっても互換性が無い場合があります。各機種間のファイル互換性については、別紙「カシオ電子キーボードデータ互換表」を参照してください。  |
| Memory Full                | ユーザーデータのメモリーが一杯です。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• Package Editモードで表示された場合<br/>エラーが表示された時に選択していたデータ種類が“Song Sequencer”か“Music Preset”を確認してください。そのデータ種類のデータはこれ以上楽器に転送することができませんので、パッケージデータから不要なデータを削除してください。</li> <li>• Package Editモード以外で表示された場合<br/>エラーが表示された時に選択していたデータ種類が“Song Sequencer”か“Music Preset”を確認し、そのデータ種類のうち不要なデータを楽器から消去し、メモリーの空き容量を増やしてください。</li> </ul> |
| File Too Large             | 楽器で使用可能な最大サイズを超えるユーザーデータファイルを楽器に転送しようとしたり、パッケージファイルに登録しようとしたりました。 | そのファイルはこの楽器では使用できませんので、別のファイルを使用してください。   |
| Keyboard Data Is Different | 楽器上のデータの状態が、表示と異なっている可能性があります。                                    | リロードボタンをクリックし、表示を最新の状態に更新してください。  |



**CASIO®**

カシオ計算機株式会社  
〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2

MA1202-A DM61-JA-1A  
© 2012 CASIO COMPUTER CO., LTD.